



岐阜大学 (岐阜県)

日本語をみがく秋学期、日本文化に親しみ論文に集中する春学期

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

●岐阜大学は、5学部・1学環、9大学院研究科、学内共同教育研究支援施設、全国共同利用施設、図書館、医学部附属病院などからなる総合大学です。本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の採択、「国際教養コース」やjoint degree programの開設など、広い分野にわたって質の高い教育・研究が行われています。

●岐阜大学のある岐阜市は、東京から約2時間（新幹線利用）、大阪や京都から約1時間（同）、名古屋から約20分という交通の便に恵まれた地方都市です。キャンパスのある柳戸地区は、岐阜駅からバスで約30分、自然豊かな田園地帯にあります。静かな環境に恵まれ、落ち着いた雰囲気の中で勉学に集中することができます。

●学部及び学生数等（2025年5月現在）

○学部・学環＝教育学部・地域科学部・医学部・工学部・応用生物科学部・社会システム経営学環

○大学院＝教育学研究科・地域科学研究科・医学系研究科・工学研究科・自然科学技術研究科・共同獣医学研究科・連合農学研究科・連合創薬医療情報研究科・社会システム経営学院

○教員 867名

○学生 学部生 5,629名 大学院生 1,711名
研究生・聴講生 133名 合計 7,473名

② 国際交流の実績（2025年5月現在）

●現在、20カ国51大学と大学間学術交流協定、29カ国62大学と部局間学術交流協定を結んでおり、活発な国際交流を行っています。

●留学生在籍数 283名（約8割が大学院生、37カ国から）

●外国人研究者在籍数 14名

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数283人、日研生5人

2024年：留学生数296名、日研生5名

2023年：留学生数294名、日研生6名

④ 地域の特徴

●岐阜県は、日本のちょうど中央にあります。北部には高い山々が連なり、南部には清らかな川が流れています。日本の美しい自然と古き良き文化が残っており、伝統と現代とが調和した生活が見られる地域です。織田信長が城を構えた地としても有名です。

●岐阜県には、高山・白川郷・郡上など、全国的に有名な観光地があります。岐阜市でも、中央を流れる長良川では伝統的な鵜飼が行われ、そのほか多くの文化資源に恵まれています。

●岐阜市は、人口約40万人の中規模都市です。大都市より物価が安く、地域コミュニティ間の交流も活発なので、留学生活を送るのに適した地域です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

b) 主に日本語能力の向上のための研修

日本文化を深く学びたい学生、日本語力を向上させたい学生、どちらにも対応できるコースを提供しています。

●日本語能力のレベルに応じて、日本語クラスを受講することができます。そのため、段階的で効果的な日本語能力の向上が可能となっています。

●多彩な日本文化科目を開設しています。受講生の興味・関心に従ってこれらの科目を受講することになります。

●1年間（秋学期・春学期）で効果的な学習ができるよう、本コース受講生対象のクラスを設けています。

●能・狂言等の鑑賞、地域文化体験、博物館見学などを行い、伝統文化に触れます。

●岐阜県内（岐阜市・郡上市など）および近県へ数回、見学や実習の旅行に行きます。

●岐阜大学留学生対象の旅行にも参加することができます。

●日本人学生と交流するクラスも設置しています。また、日本人学生および学部留学生用の授業を履修することも可能です。

●日研生をサポートするチューターがいます。

●本コース修了後、日本の大学院に再留学する修了生も少なくありません。

●修了生の感想をぜひごらんください：

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/education/jlscourse/message/>

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

※大使館推薦の学生を優先的に受け入れます

④ 受講希望者の資格、条件等

- 在籍大学において日本語・日本文化を主専攻とする学部学生（2年生以上）であること。
- 日本語能力試験N2合格以上、あるいはそれに相当する日本語力を有していること。
- 他専攻であっても、日本への強い興味を持ち、N2相当の日本語力を有する場合は可。

⑤ 達成目標

- 日本語能力の向上を目指すとともに（日本語能力試験N1合格以上）、実体験を通して日本文化についての広い知識を学びます。
- 修了論文作成を通して、研究および論文執筆・発表の基礎を身につけます。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年10月上旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 10月初め：渡日
- 10月：秋学期ガイダンス・開講式
- 11月：大学祭
- 12月：伝統衣装ワークショップ
- 1月：論文テーマ決定
- 4月：春学期ガイダンス
- 5月：郡上踊りワークショップ
- 6～7月：能楽ワークショップ等文化体験
- 8月：修了論文提出、修了論文発表会、論文審査、成績判定、修了式（2025年は8月21日）
- 8月末：帰国
- （1年を通して随時上記以外の文化体験、地域貢献活動を実施）

⑨ コースの修了要件

- 日本語・日本文化研修コースで規定されている講義科目を受講し、出席率を満たした上で、一定の成績を修めて必要単位を取得すること（秋学期19単位、春学期21単位。次表参照）。
- 修了論文を執筆し口頭発表すること。
- 早期修了は、原則として認めません。
- 成績証明書、修了証書を発行します。
- 単位認定・単位互換は、在籍大学との交渉を通じて可能です。在籍大学に確認してください。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

- 1）研修・コース科目の特徴
- 実体験を伴って多彩な日本文化に触れることができます。秋学期には伝統衣装、春学期には、郡上踊り、能楽、茶道、それぞれのワークショップが予定されています。
- 岐阜地域の文化と歴史について、詳しく学べます。
- 修了論文指導が非常に丁寧で充実しています。

【日本語科目】

- 「総合日本語」
中上級レベルの文法・語彙・読解・口頭表現・文章表現など、総合的な日本語能力の向上をはかります。
- 「日本語読解演習／文章表現／口頭表現／聴解演習」
個別の日本語能力の上達をめざします。

【日本文化科目】

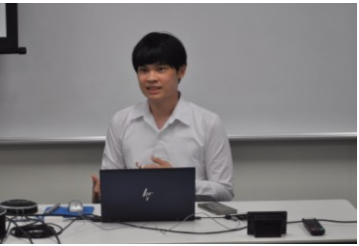
- 「日本文学概論」「地域実見-岐阜を知る-」「日本文化へのいざない」
日本の社会と文化を学び、自国の社会と文化との相違を認識します。これらは本コース受講生のために設定されている科目です。
- 「日本事情C I」「言語学入門」
日本人学生とのディスカッションや共同作業を通して、多文化社会についての理解を深めます。

【全学共通教育科目】

- 日本人学生用に開講されている科目です。多様な講師による日本語での講義を受講します。

【論文指導・修了論文】

- 問題意識を高めた上で、論文の作成に進みます。論文完成後、修了論文口頭発表会を開催します。
- 2025年度（24期生）岐大日研生の修了論文テーマ
・あいつちについて ―中国人留学生の視点から見る―
・中国における日本のスポーツアニメの異文化伝播
・日本語の文字のイメージ
・侘び寂び：日本美学の核心とその異文化的視点
・日本とベトナムの「孤食」の比較研究



2）研修・コース開設科目

- 授業は秋学期・春学期原則各15週開講されます。
- 必要単位数は秋・春合計40単位です。
- 授業科目名は変更される場合があります。
- 一週間あたりのコマ数（1コマ＝90分）は下記のとおりです。

Ⅰ）必修科目

授業科目	秋学期	春学期	計
総合日本語	5（5）	—	5（5）
全学共通教育科目	—	3（6）	3（6）
日本語読解演習	1（2）	1（2）	2（4）
日本語文章表現	1（2）	1（2）	2（4）
日本語口頭表現	1（2）	1（2）	2（4）
日本語聴解演習	1（2）	—	1（2）
日本事情C I	1（2）	—	1（2）
日本文学概論	1（2）	—	1（2）
地域実見岐阜を知る	1（2）	—	1（2）
言語学入門	—	1（2）	1（2）
日本文化へのいざない	—	1（2）	1（2）
論文指導	—	1（1）	1（1）
修了論文	—	（4）	（4）
合計	12（19）	9（21）	21（40）

Ⅱ) 選択科目

●より専門的な内容を学びたい場合は、学部開講科目の履修も可能な場合があります。ただし、担当教員の許可が必要です。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

●秋学期の「地域実見」では、岐阜県内施設（博物館、史跡、農園等）を訪問し、地域の歴史や文化について学びます。春学期には郡上踊りのワークショップもあります。

●本学の歴代の日研生は、地域（主に岐阜県郡上市）の観光振興プロジェクトや人事課研修に貢献しており、今後も継続が予定されています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

●春学期には、日研生コースの一部として全学共通科目を選択します。日本人学生とともに学ぶ科目で、グループ活動が重視される授業では、活発な意見交換が求められます。ただし、全学共通科目の履修には、十分な日本語能力と担当教員の許可が必要です。

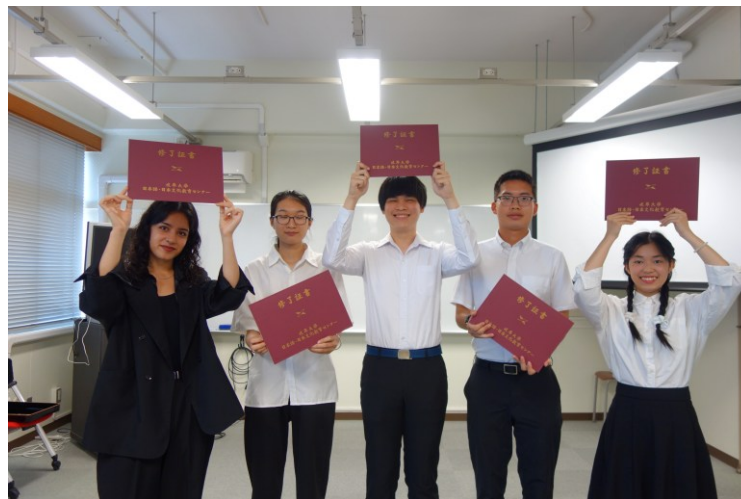
⑪ 指導体制

【責任教員】

氏名	所属	職名	専攻
土谷桃子	日文センター	教授	日本文学

【協力教員】

上記以外の日文センター教員、地域科学部・教育学部の教員、非常勤講師など



■宿 舎

●岐阜大学には、大学内に外国人留学生・研究者用の宿泊施設である国際交流会館があります。

●日本語・日本文化研修コース受講生は、この宿舎の単身室が優先的に提供されます。過去の本コース受講生は、全員本宿舎に入居しています。

【国際交流会館】

鉄筋コンクリート4階建（A棟）・5階建（B棟）
部屋数 単身室69室・夫婦室14室・家族室7室
（単身室A棟5,900円/月・B棟4,700円/月）

※今後、家賃は変更する可能性があります。



■修了生へのフォローアップ

●岐阜大学の日研生コース修了者の特色は、再来日し日本の大学院に入る学生が多いことです。日本への再留学を希望する学生には、随時進路相談に乗っています。

●過去には、岐阜大学をはじめ、全国各地の国立大学の大学院に進学しています。研究者として本学に戻ってきた修了者もいます。

●大学または大学院修了後、日本で就職した学生、帰国して日系企業に就職した学生も多いです。

●本コース修了生がたびたび岐阜大学を訪問してくれることを、とても嬉しく思っています。

Facebookでも継続的に交流しています。



■問合せ先

<担当部署>

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室

住所：〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

TEL：+81-58-293-2142（直通）

FAX：+81-58-293-2143

Email：inbound@t.gifu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

岐阜大学ウェブサイト

<http://www.gifu-u.ac.jp/>

岐阜大学日本語・日本文化教育センターサイト

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/>
（Facebookもご覧ください）

日研生コースページ

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/education/jlscourse/>